

「八幡市子ども会議」だより

発行：八幡市教育委員会 令和2年1月

「八幡市子ども会議」とは

「八幡市子ども会議」は、「八幡市の未来を担う子どもたちが、あらゆる人に対する思いやりや、いたわりの心、生きることの尊さについて考え、人々が生涯を通じて等しく、充実した生活ができる社会をめざして、自分の意見を表明し、子どもの立場から議論・提言をすること」を目的とし、平成16年度から継続し16年目を迎えた取組です。

本年度は、市内小・中学校と京都府立京都八幡高等学校の児童・生徒32名の委員が、昨年6月から本年1月まで、八幡市をよりよくすることを目指し、自分たちで決めたテーマについて、話合いや施設の見学、さらには実習等の調査研究活動を行い、市長への提言にまとめてきました。また、活動を進めるに当たり、立命館大学政策科学部 稲葉光行教授に御指導いただくとともに、稲葉ゼミの大学生にも活動のサポートをしていただきました。

「令和元年度 八幡市子ども会議 ー市長への提言ー」

令和元年12月21日に八幡市社会福祉会館3階にて、「八幡市子ども会議 ー市長への提言ー」を行いました。各班の主な提言内容を紹介します。

小学生A班

「^{やわ}八ふり」～八幡のお茶を使った“ふりかけ”

八幡市のお茶と八幡自体の知名度を上げる方法を考えました。「八（やわ）ふり」（八幡のお茶ふりかけ）を給食に出したり、市のイベントに出したり、たけのこのパッケージに入れたものを商品化してほしいということを提言しました。



中学生C班

「巡り～YAWATAPI とともに～」

八幡市への観光客が少ないので、八幡の観光地に観光客を誘導したい。話題性のあるタピオカドリンクなら観光客が集まるのではないかと考えました。八幡市の名産品と観光地とタピオカを組み合わせ、 「YAWATAPI スタンプラリー」の実現を提言しました。



小学生B班

「バスで行く！やわたトリップ！」

調査を通して、既存の路線図が見にくいことが分かり観光マップとバスの路線図が融合した地図を考えました。自分たちが考えたマップを駅に設置すること、マップを印刷した「バスの1日乗車券」を発行すること、マップが印刷されたハンカチを駅に置くことを提言しました。



高校生D班

「八幡体操 みんなで身体も心も健康になろう」

八幡市民の健康促進と社会参加を促すために、八幡市民が共通して踊ることができる体操があればいいのではないかと考えました。健康推進はもちろん、地域コミュニティの活性化や体操を広めるアイドルなどを用いることを提言しました。



講評 立命館大学政策科学部 教授 稲葉光行 先生

16年前の第1回の時から世話役として様子を見ております。

第1回目、第2回目の最初のころは、子どもたちが「何を話せばいいのでしょうか。」「何を提言すればいいのでしょうか。」と聞いてくるのが続いていました。今日の子どもの提言を聞いていただきましたが、アイデアが弾けているというか、アイデアの花火大会みたいな、ものすごく濃いアイデアがどんどん出てきて、大学生がまとめるだけで大変なくらいです。

「学び方を学ぶ」ということを学習指導要領で文部科学省が出してもすぐにできるものではありません。八幡市のように長年蓄積していくことが大事なのだな。それではじめて八幡市ではこのレベルでできるんだと改めて八幡市の取組の先進性を感じました。



「八幡市子ども会議」を終えて

今年度最後となる「子ども会議」を1月に開催し、活動の振り返りを行い、無事終了しました。

子ども会議委員からは、「八幡に住んでいても気が付かない地域の魅力などに気付くことができた」「一人ではできないことをみんなとやれば早くできるし協力することがどれほど大切かを学んだ」などの感想が聞かれ、活動が充実していたことが分かりました。

来年度も「八幡市子ども会議」を開催する計画をしており、新たな視点からの提言に取り組みます。